増設事業の進捗状況について

1．処理情報センター改造内容

資料2－11
（第27回監視円卓会議）

1

□当初処理施設模型の横に
増設処理施設説明ブースを新設

●施設俯瞰写真（またはパース）
●施設内写真
●処理の概要
●現在模型に付随しているモニターを利用し、プラズマ溶融処理の説明ビデオを放映。（ビデオは今回リニューアルする施設紹介ビデオの一部分を流用します。）

2

□展示パネル6枚のうち、1枚を新規パネルに差し替え

3

□ゾーンの配置を見直し、新たにプラズマ溶融の処理フローパネルを作成。
□安定器を受入品実物展示に追加。アクリルボックスを新規作成
□スラグ、プラズマ固形物を払出品展示に追加。アクリルボックスを新規作成
□受入品説明ボード、払出品説明ボードを新規パネルに差し替え

4

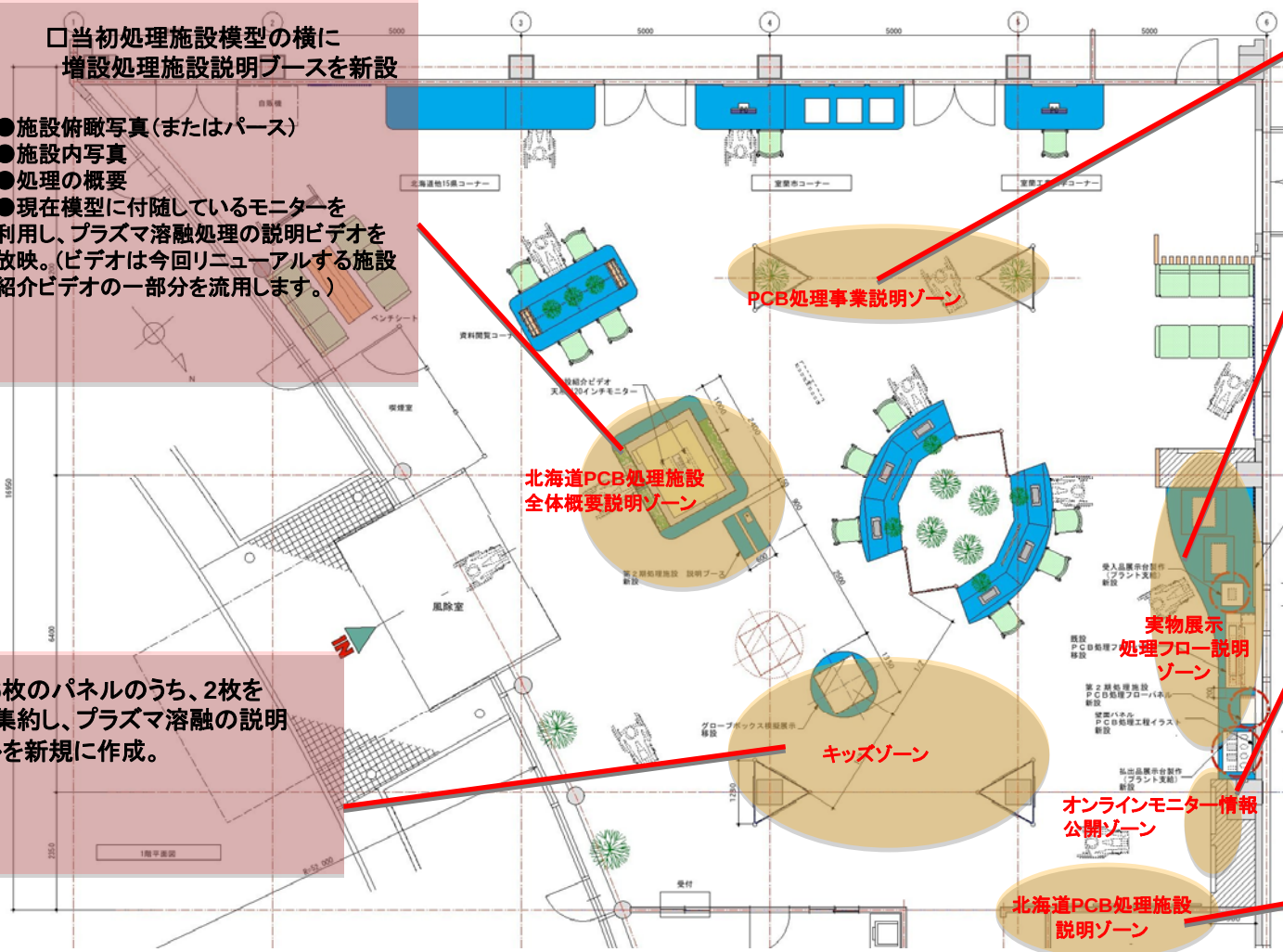
□増設処理施設のモニタリング説明パネル2枚を新規作成

5

□展示パネル5枚のうち、2枚を新規パネルに差し替え

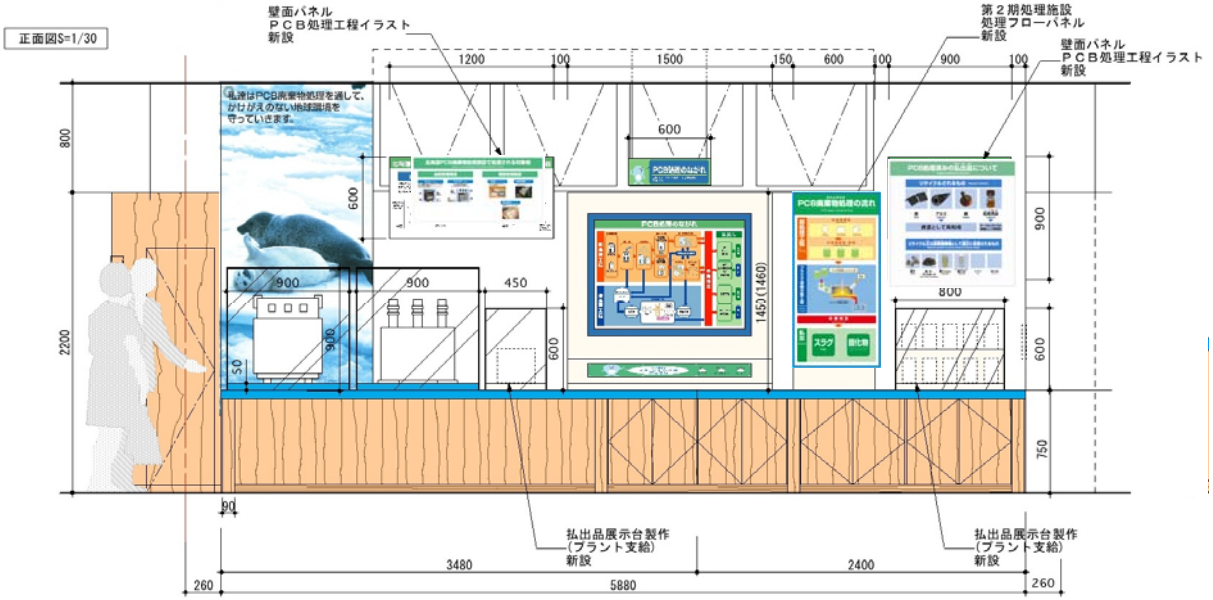
6

□既存6枚のパネルのうち、2枚を1枚に集約し、プラズマ溶融の説明パネルを新規に作成。

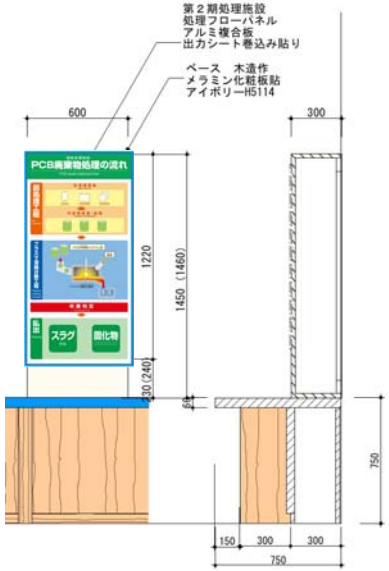


実物展示・処理フロー説明ゾーン

□新規レイアウト案

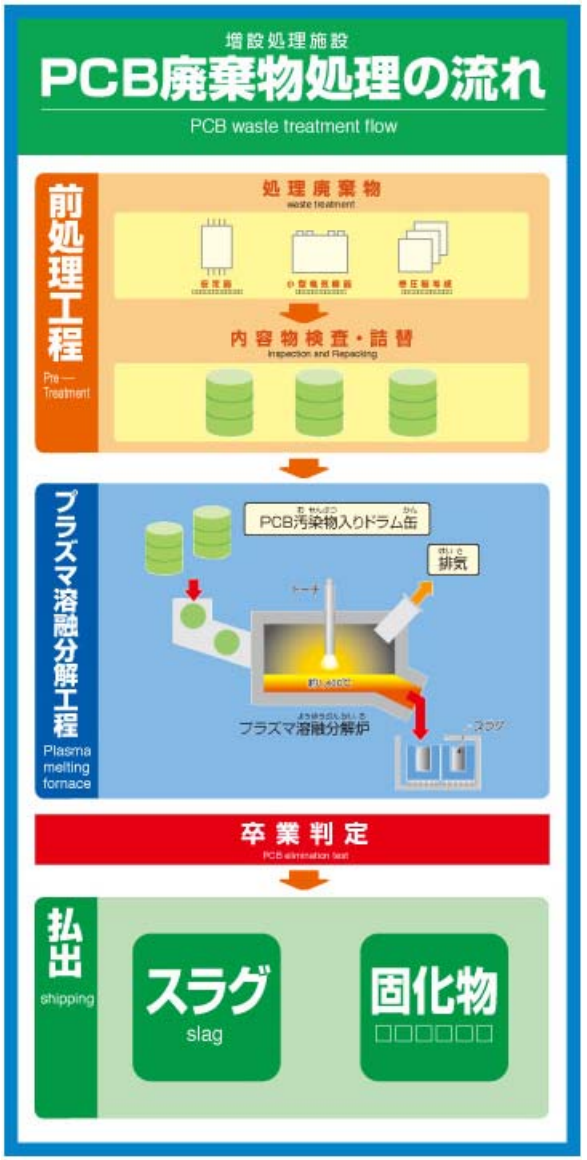


□増設処理施設
処理フローパネル
ベース仕様図

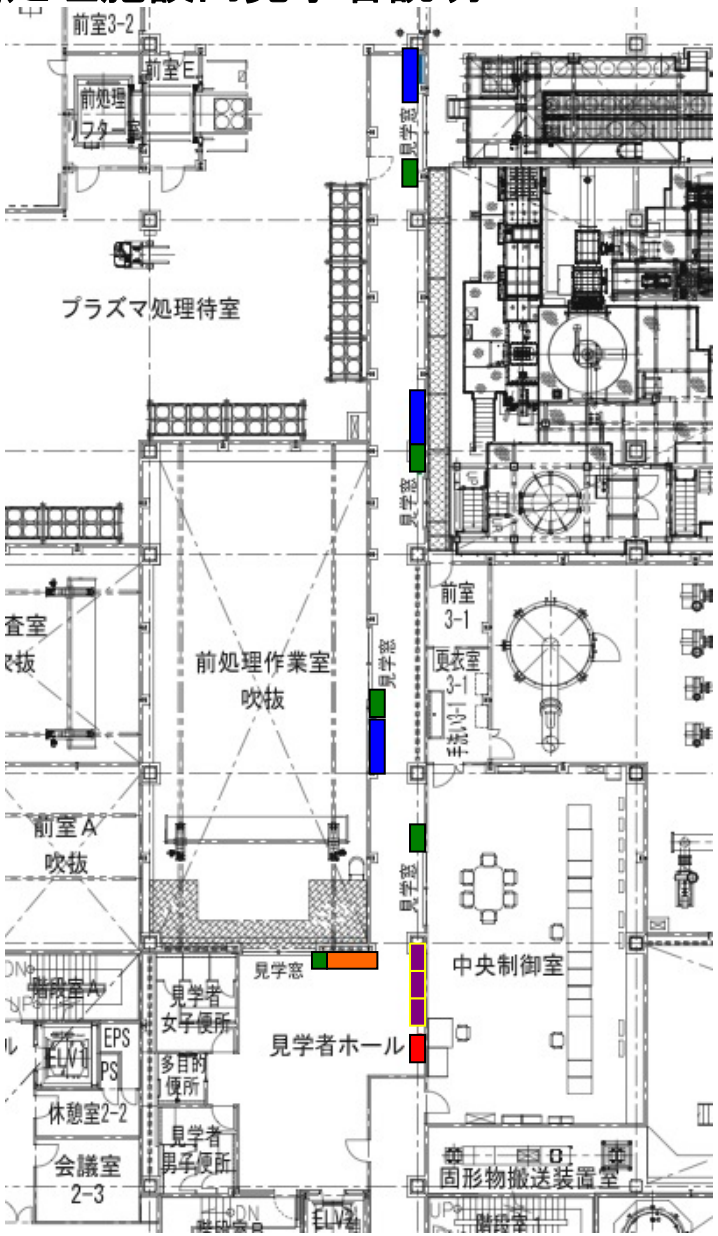


□増設処理施設処理フローパネルデザイン案

●W600×H1200



2. 増設処理施設内見学者説明



増設処理施設3階見学者ホール

増設処理施設（プラズマ）処理フローパネル

●処理全体の工程を解説します。全体の流れをここで見学者の皆様に説明します。
また、施設平面図を入れ、施設全体の位置関係がわかるようにします。
A4のリーフレットが入るケースを付属。

工程説明パネル

●3カ所で見学窓から見える工程を解説します。
1　前処理作業室
2　ドラム缶受入供給
3　プラズマ溶融分解炉
全体の工程の中で、今どこの工程を見ているかがわかるよう工夫します。施設平面図も入れ、現在地を明らかにします。
A4のリーフレットが入るケースを別途用意。

見学窓キャプション

●窓の数にあわせ5枚作成します。また、簡単な解説文も加えます。

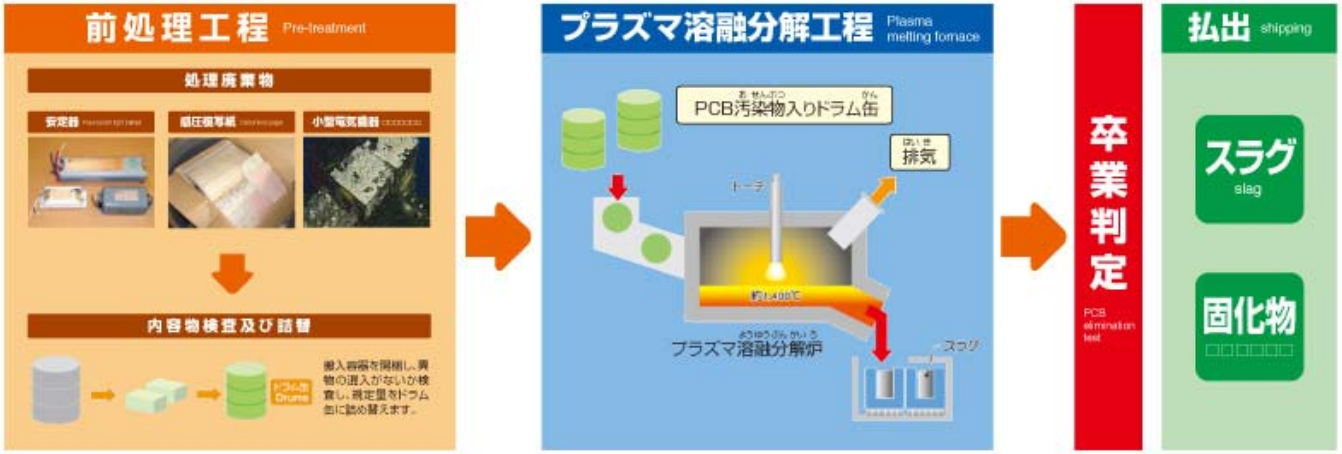
ITVカメラモニター

ITVカメラ配置図

●3台のモニターの近くに設置します。

増設処理施設（プラズマ）処理フローパネルデザイン案

増設処理施設 PCB廃棄物処理の流れ



増設処理施設では、プラズマ溶融分解という方法でPCB廃棄物を処理し、無害化しています。

増設処理施設ではプラズマ溶融分解という方法でPCBを処理しています。
搬入容器に入れられたPCB汚染物は、前処理作業室で開梱され、内容物を検査します。
検査後、汚染物の種類ごとに、決められた量をドラム缶に詰替えます。
ドラム缶はドラム缶受入供給室に運ばれます。そして1缶ずつプラズマ溶融分解炉へと投入されます。
プラズマ溶融分解とは、プラズマアークと呼ばれる15000度の熱を当てることで炉の内部を約1400度の高温に保ち、PCB汚染物をドラム缶ごと溶かし無害化します。
溶融分解したものは溶融スラグとなり、プラズマ溶融分解炉から排出され、冷却し固体化されます。
プラズマ溶融分解炉からの排気はいくつもの処理工程を経て、PCB、ダイオキシンなどの有害成分を取り除いた後、安全を確認し、大気に放出されます。
払い出される部材やスラグ、固化物などはサンプルを採取します。
採取したサンプルは卒業判定分析され、合格、つまりPCBが所定の基準値以下であることを確かめます。
合格した処理物は施設外へ払い出されます。

平面図

3. 工事写真

4，試運転内容

項　目	実施・確認内容	時期（予定）
（1）電動機単独運転	電動機回転方向、電流値など	H25年1月
（2）信号チェック、 シーケンスチェック	信号配線、制御システム、動作プログラムなど	H25年1月
（3）機器調整運転	各機器、装置単位での動作など	H25年2月～3月
（4）総合調整運転	各装置の連動運転など	H25年3月～4月
（5）負荷試運転（模擬物）	模擬物を使用した全体機能確認、緊急停止試験など	H25年4月～5月
（6）負荷試運転（PCB廃棄物）	PCB廃棄物を使用した全体機能確認、 引渡性能試験など	H25年6月～7月
（習熟運転）	運転員の操業技術習熟のための運転	H25年8月 （→H25年9月操業開始）